

## 森林資源保護の推進（継続）

＜森林づくり交付金ソフト＞

【平成19年度概算決定額 3,322,722千円の内数（3,695,468千円の内数）】

### 対策のポイント

松くい虫をはじめとする森林病害虫やシカ等の野生鳥獣による被害について、直接的な防除措置の実施のほか、地域が自主的に取り組む森林保全体制の整備、普及啓発等を、地域の実情に応じて総合的かつ一体的に図ることで、的確な森林資源の保護に資することとしています。

- ・全国の松くい虫被害量は、昭和54年度の243万 m<sup>3</sup>をピークに減少傾向で推移
- ・平成17年度の被害量は69万 m<sup>3</sup>とピーク時の3割程度
- ・一方、東北地方等、高緯度・高標高地域では被害地域が拡大
- ・野生鳥獣による被害については、近年、生息域の拡大等を背景に新たな地域で発生
- ・シカによる下層植生の食害等により、生物多様性の喪失や土壌流出などの新たな問題も顕在化。

### 政策目標

#### 【松くい虫被害対策の推進】

保全すべき松林が適正に保全されていると認められる都府県の割合を100%に

#### ＜内容＞

1. 森林病害虫等防除活動支援体制整備促進事業  
地域の主体的な防除活動を促進するため、被害監視体制の整備、防除技術等の指導、普及、防除機器の貸付等を実施します。
2. 松林保全体制整備強化事業  
地域生活に密着した松林について、地域住民の積極的な参加を促進し、地域一体となった松林保全体制の整備や予防手法の実証事業等を実施します。
3. 森林病害虫防除事業  
法定森林病害虫等以外の森林病害虫等の駆除、普及啓発活動、被害発生源除去、予防手法の実証及び発生予察等を実施します。
4. 松林健全化促進事業  
松くい虫被害の発生しにくい森林環境の整備を図るため、林内環境の改善、被害発生源等管理、普及啓蒙等を実施します。
5. 野生鳥獣被害防除事業  
野生鳥獣による森林被害の軽減を図るため、防護柵の設置等による被害防除、広域的な有害鳥獣駆除活動体制の整備、被害対策の普及啓発等を実施します。

#### ＜交付率＞

定額

#### ＜事業実施主体＞

都道府県、市町村、森林組合等

#### ＜事業実施期間＞

平成17年度～平成21年度（5年間）

[担当課：林野庁研究・保全課森林保護対策室]